

気仙沼港朝日地区防潮堤及び 大川河川堤防の事業説明会

場所: 気仙沼市魚市場 第1会議室

日時: 平成26年7月8日(火) 14時00分～

本日の説明事項

- (1) 防潮堤の災害復旧の考え方
- (2) 防潮堤の構造
- (3) 防潮堤に係る配慮等
- (4) 事業の進捗状況



大川河川堤防
港湾防潮堤



(1)防潮堤の災害復旧の考え方

(1) 防潮堤の災害復旧の考え方

「頻度の高い津波」と「最大クラスの津波」

- 「頻度の高い津波」に対しては、海岸堤防により、**人命・財産や種々の産業・経済活動、国土を守る**ことが目標。
- 1000年に1度と言われる今回のような「最大クラスの津波」に対しては、住民の避難を軸に、土地利用、避難施設の整備など**ソフト・ハードを総動員する「多重防御」**の考え方で減災。

頻度の高い津波 (L1)

- 最大クラスの津波に比べて発生頻度は高い(数十年～百数十年)
- 住民の生命を守ることに加え、**住民財産の保護、地域の経済活動の安定化**などの観点から、引き続き、比較的頻度の高い津波に対して**海岸堤防の整備**を進めることが必要

海岸堤防の整備

- 海岸堤防により、**確実に津波から街を防御**する。

最大クラスの津波 (L2)

- 発生頻度は極めて低い
- 施設整備に必要な費用や、海岸の環境や利用に及ぼす影響などの観点から、整備の対象とする津波高さを大幅に高くすることは非現実的
- **住民の生命を守る**ことを最優先として、**住民の避難**を軸に、**土地利用、避難施設、防災施設**などを組み合わせ
- 海岸堤防については、施設に過度に依存した防災対策には限界があることを認識しつつ、低頻度ではあるが大規模な外力に対しても**粘り強さを発揮する構造**を検討

新しい発想による津波防災まちづくり

- 地域ごとの特性を踏まえ、ハード・ソフトの施策を柔軟に組み合わせ、総動員させる**「多重防御」**の発想による津波防災・減災対策
- 従来の、海岸堤防の「線」による防御から、「面」の発想により、河川、道路や、土地利用規制等を組み合わせ**たまちづくり**の中での津波防災・減災対策

(1) 防潮堤の災害復旧の考え方

計画堤防高の設定(1)

1 設計津波を設定するための地域分割



○今後発生する地震の位置やエネルギーの大きさによって、各海岸の津波高は異なる。

○一つの地域海岸は、一定の安全水準を確保する必要がある。

○このため、地域海岸の区分は、沿岸域を「湾の形状や山付け等の自然条件」等から勘案して、一連のまとまりのある海岸線を一つの地域海岸とし、同じ堤防高とした。

●宮城県沿岸を22の地域海岸に分割

(1) 防潮堤の災害復旧の考え方

位置図

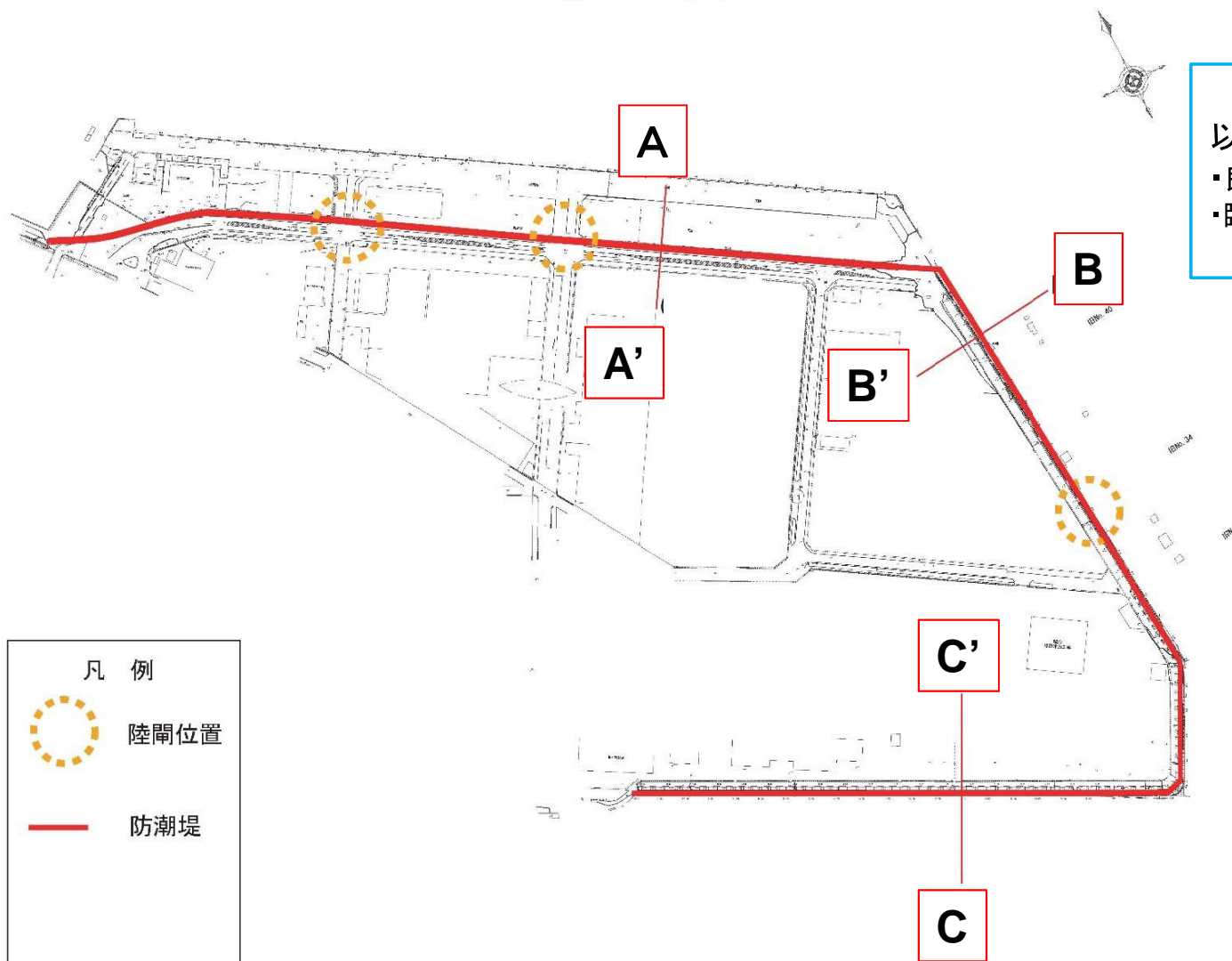


海岸名	設計津波		津波>高潮の チェック	計画堤防高	被災前 現況堤防高
	対象地震	設計津波の水位			
気仙沼湾	明治三陸地震	+6.2	津波>高潮	+7.2	+3.193



(2) 防潮堤の構造

(2) 防潮堤の構造

施工位置図



凡 例

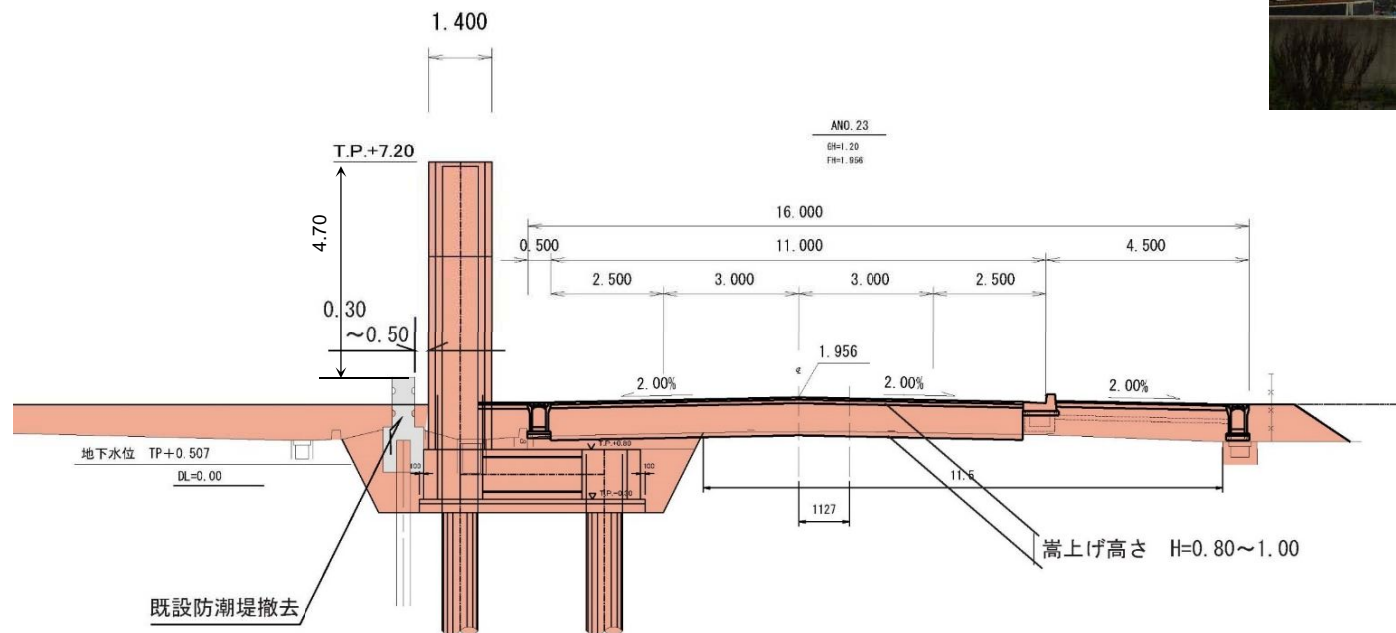
-  陸閘位置
-  防潮堤

◎朝日地区の防潮堤の構造
以下の理由から直壁タイプとした。

- 既存施設の災害復旧事業である。
- 臨港地区としての土地の利用状況等

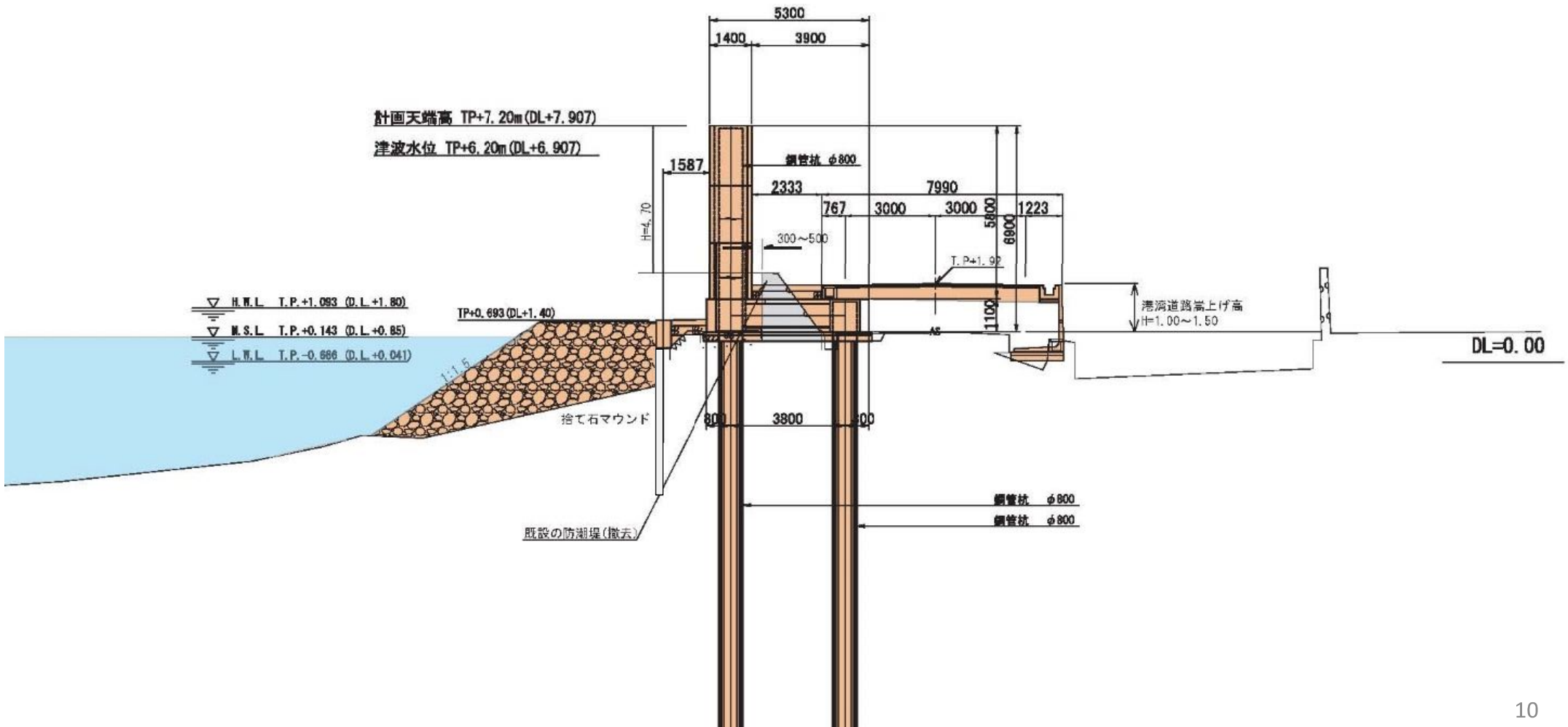
(2) 防潮堤の構造

A-A'断面 標準横断図



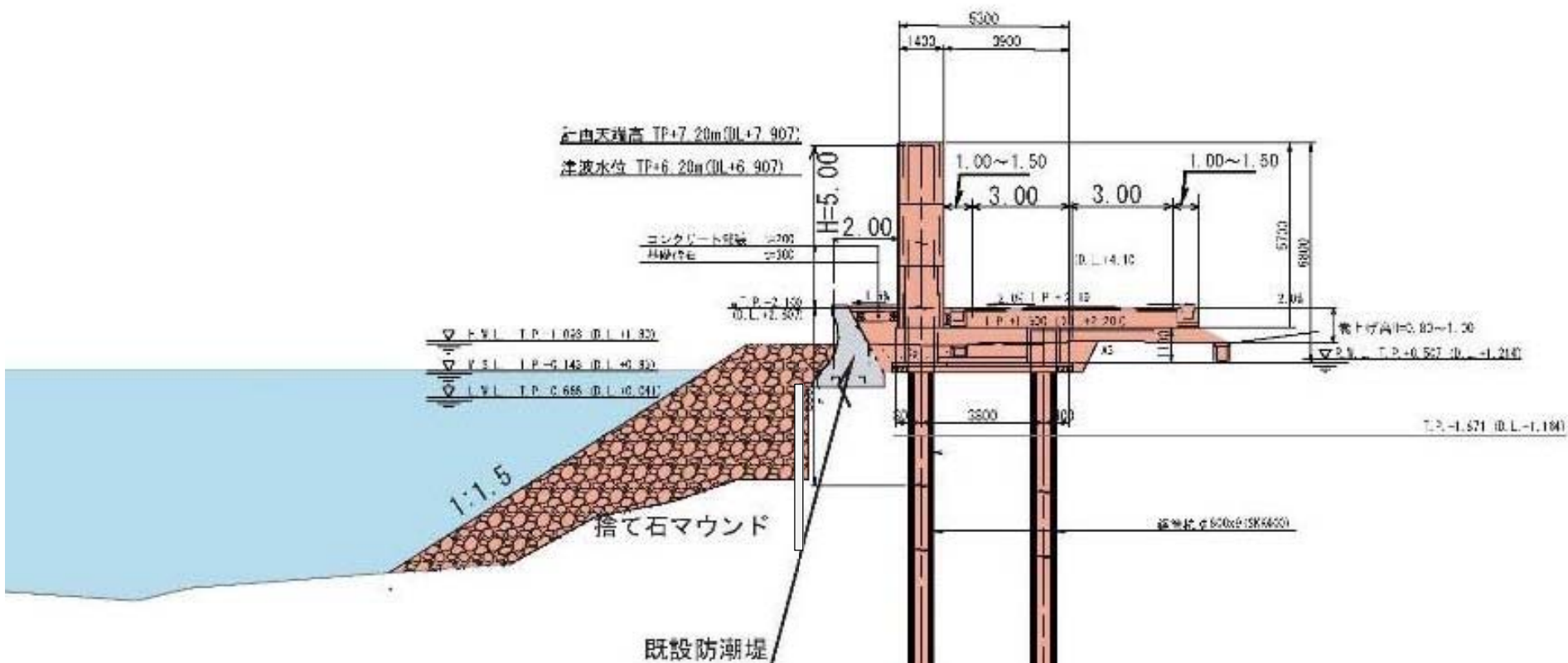
(2)防潮堤の構造

B-B'断面 標準横断面図

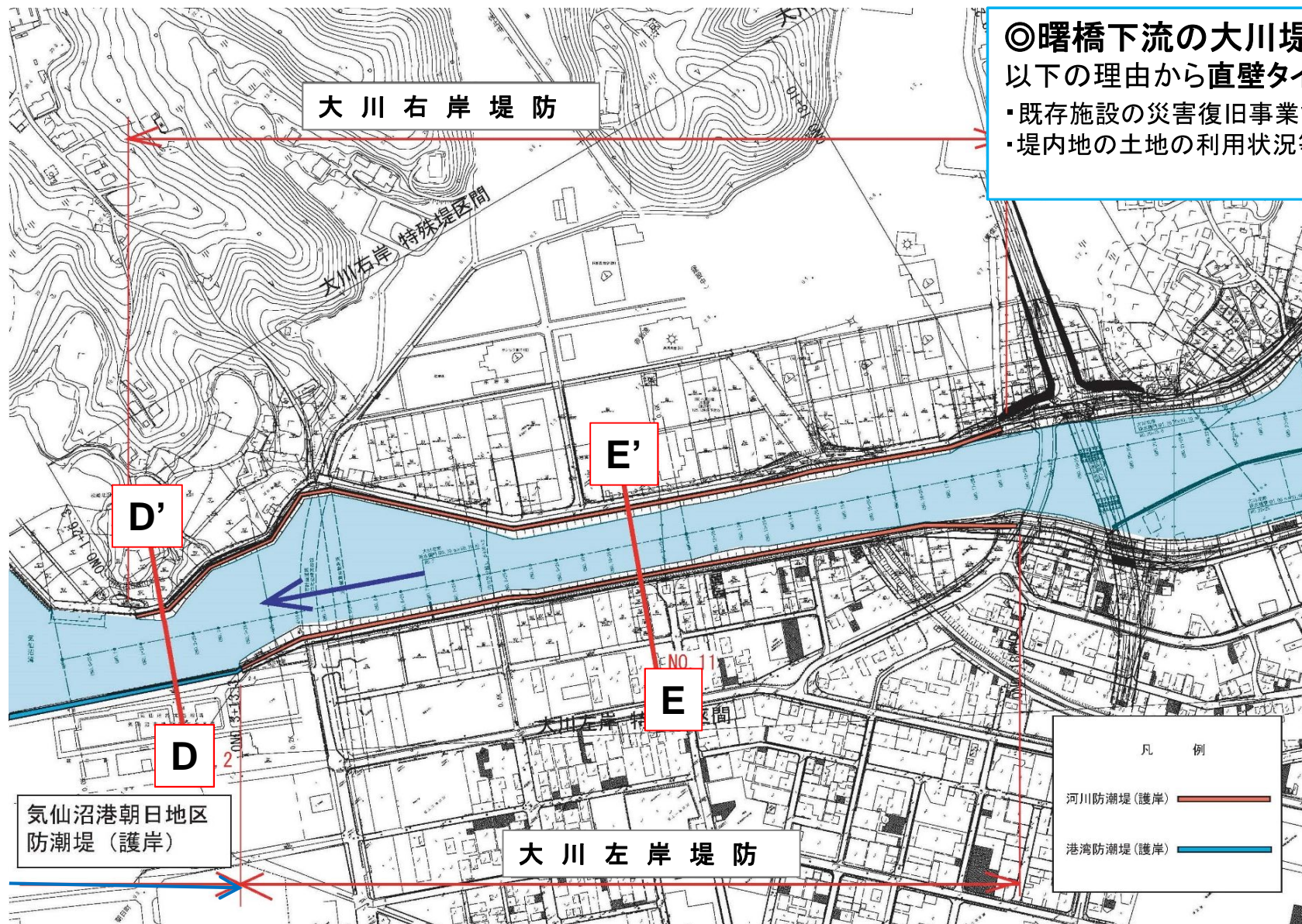


(2) 防潮堤の構造

C-C'断面 標準横断図



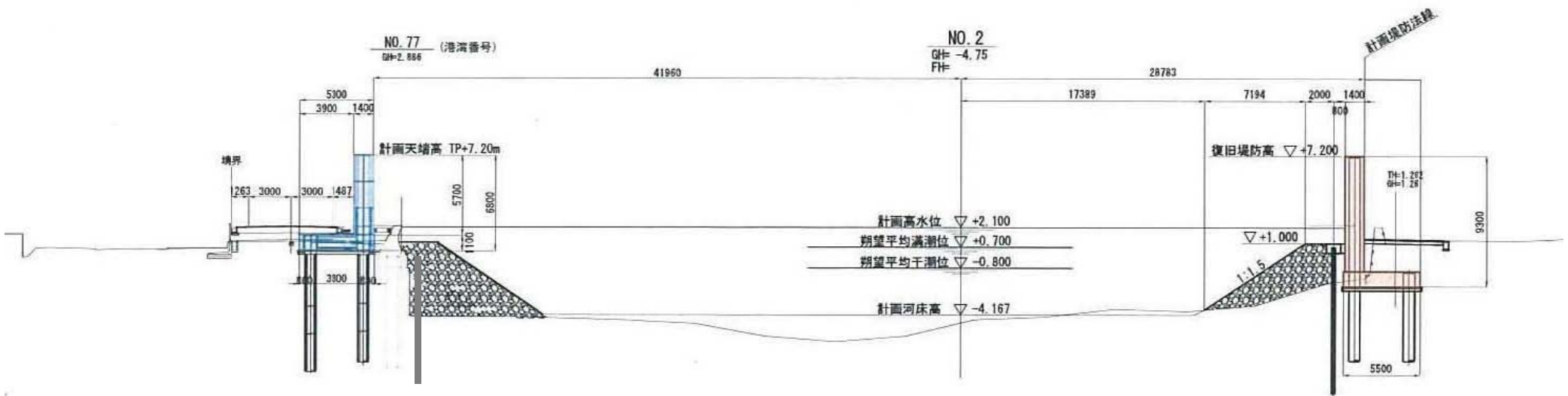
(2) 防潮堤の構造



(2) 防潮堤の構造

D-D'断面 標準横断図

朝日地区防潮堤・大川河川堤防

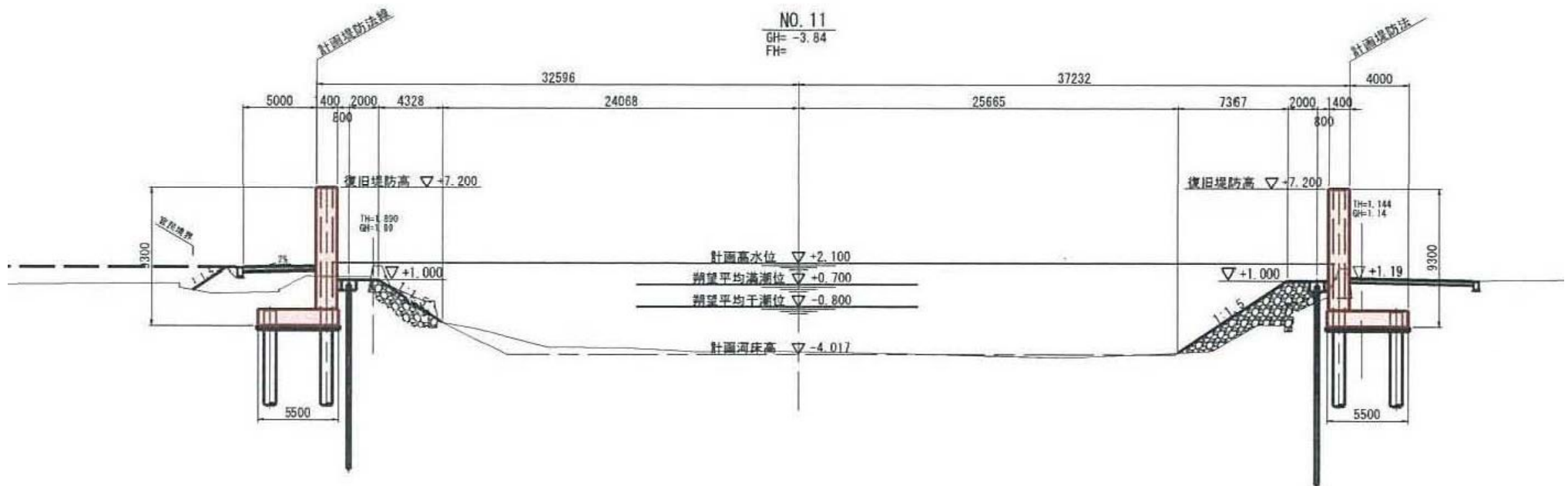


(2) 防潮堤の構造

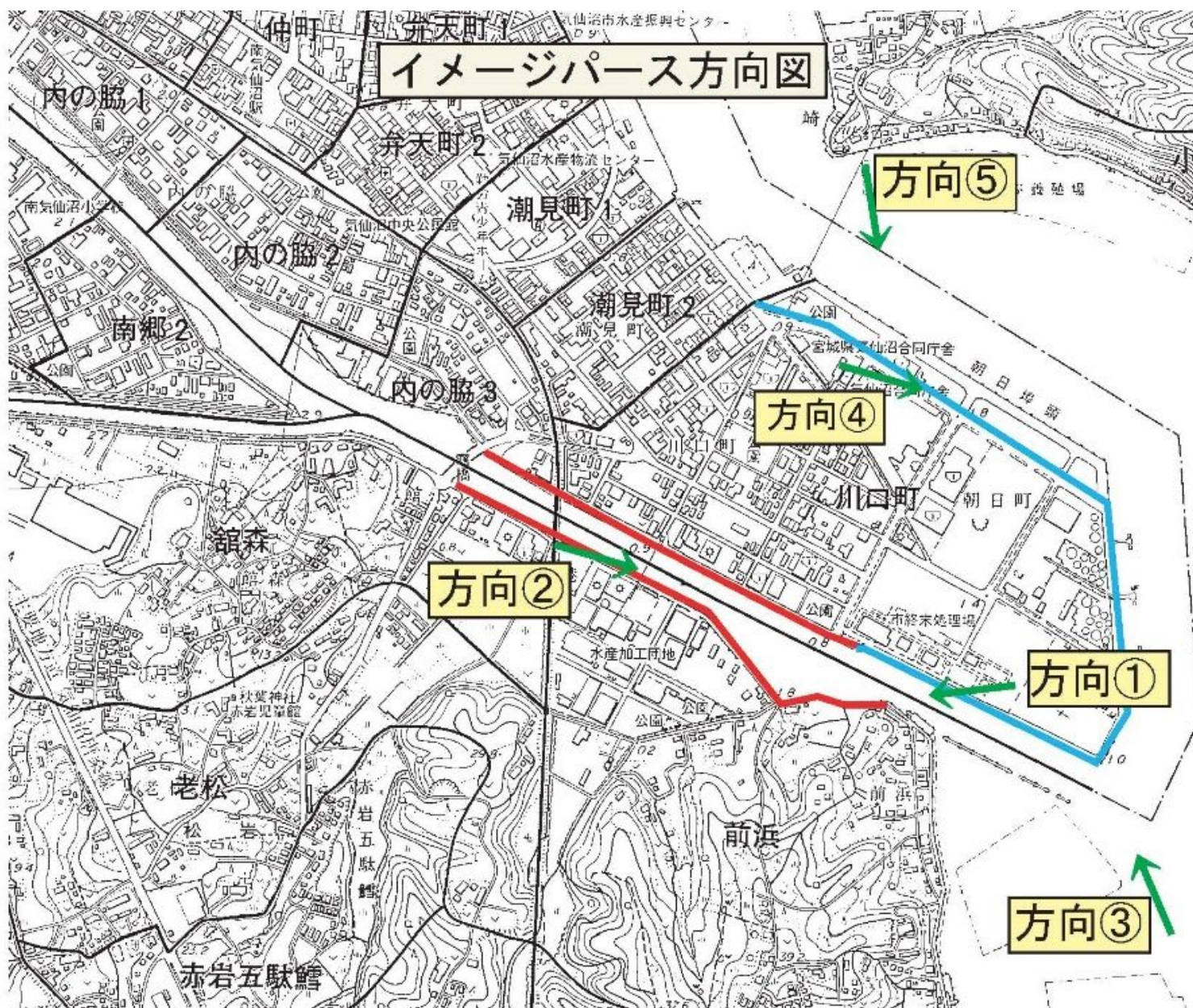
E-E'断面 標準横断図

大川横断図

S=1:200



(2) 防潮堤の構造



凡 例
 気仙沼港朝日地区防潮堤 ————
 大川河川堤防 ————

2) 防潮堤の構造



方向①
大川左岸より望む

(2) 防潮堤の構造



方向②
右岸より大川河口部を望む
(防潮堤をスケルトン表示)

(2) 防潮堤の構造

方向③
海上から大川河口を望む



(2) 防潮堤の構造



方向④
陸側から海側を望む

(2) 防潮堤の構造

方向⑤
蜂ヶ崎から、岸壁を望む

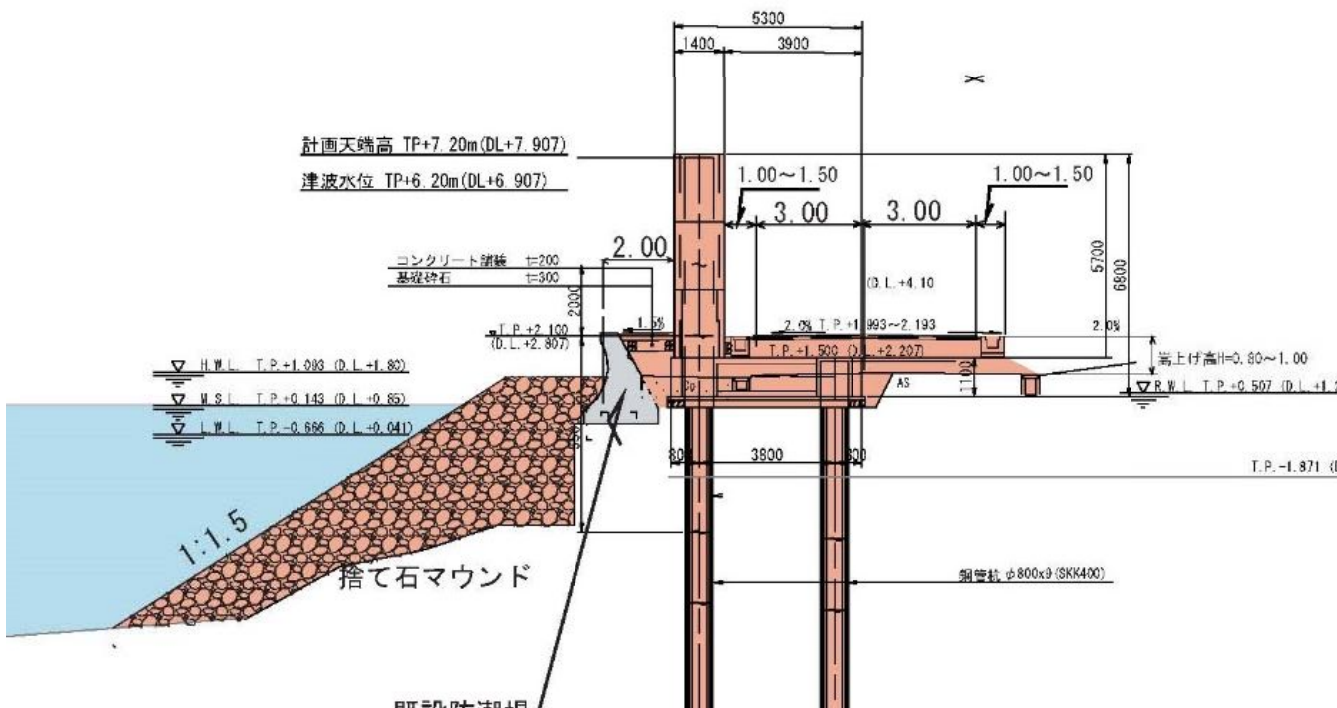


(3) 防潮堤に係る配慮等

(3) 防潮堤に係る配慮等

水際の配慮について

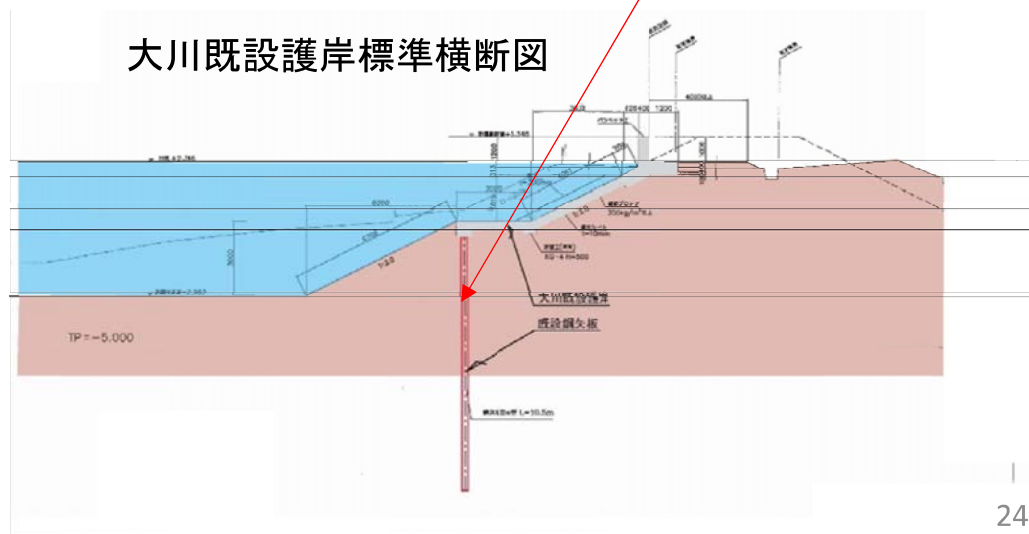
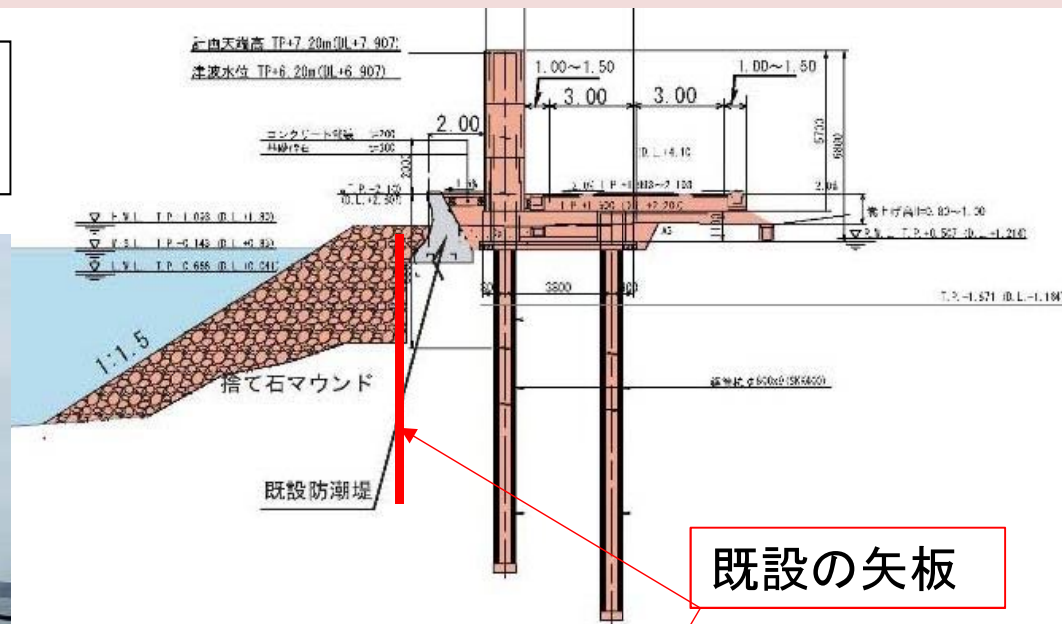
水際に根固め(捨て石)を配置することで、水生生物が生息しやすくする



(3) 防潮堤に係る配慮等

地下水流入の阻害について

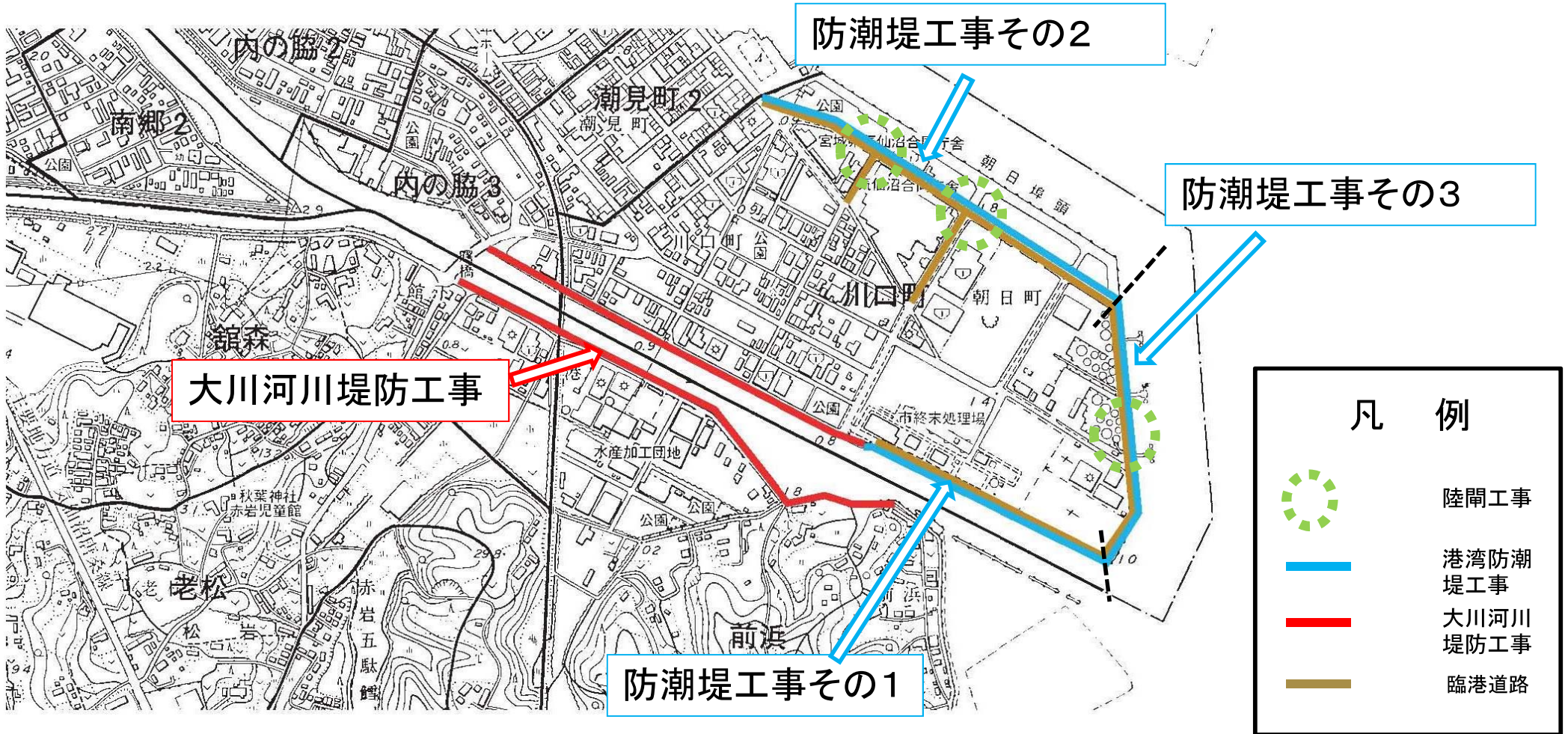
防潮堤及び大川河川堤防については、既設の護岸に矢板が施工されており、従前の機能と変わらない。



(4) 現在の事業進捗状況

(4)現在の事業進捗状況

岸壁工事(の1)



(4)現在の事業進捗状況

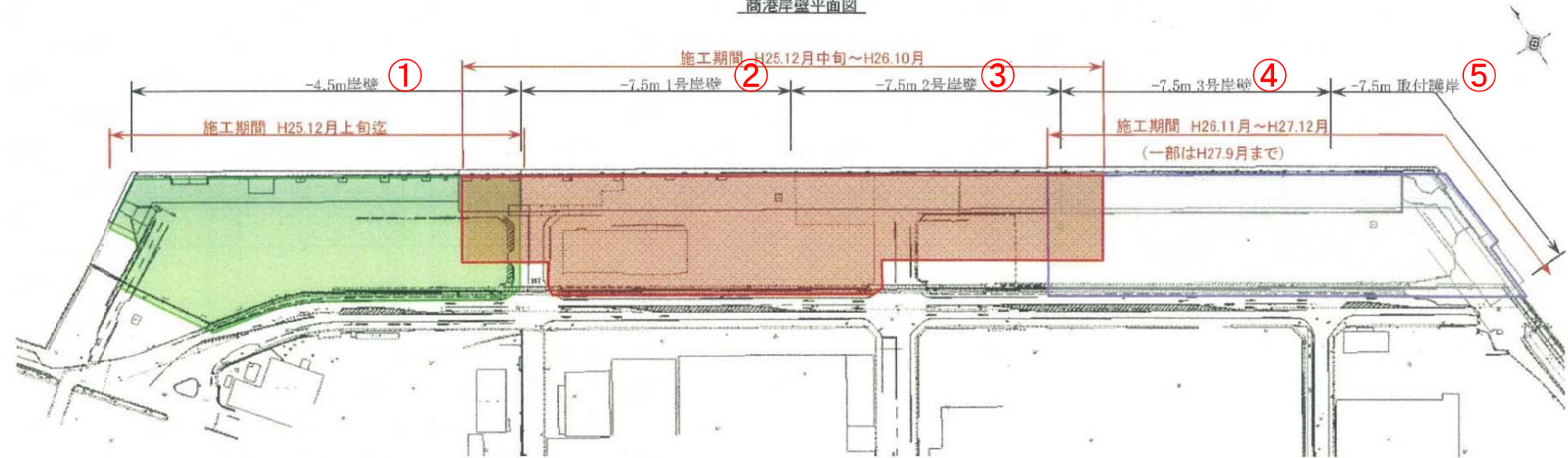
		25年度				26年度				27年度				28年度				29年度				
		一四半期	二四半期	三四半期	四四半期	一四半期	二四半期	三四半期	四四半期	一四半期	二四半期	三四半期	四四半期	一四半期	二四半期	三四半期	四四半期	一四半期	二四半期	三四半期	四四半期	
港湾	防潮堤工事																					
	防潮堤工事 その1																					
	防潮堤工事 その2																					
	防潮堤工事 その3																					
	陸開																					
臨港道路	防潮堤工事 その1と合併																					
	防潮堤工事 その2と合併																					
	防潮堤工事 その3と合併																					
大川	堤防工事																					

(4)現在の事業進捗状況

商港岸壁工事 全体工程表

工事名	岸壁	平成25年				平成26年												平成27年											
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成24年度 -7.5m岸壁外災害復旧工事	-4.5m岸壁	①																											
	-7.5m 1号岸壁					②																							
平成25年度 -7.5m岸壁災害復旧工事	-7.5m 2号岸壁					③												④											
	-7.5m 3号岸壁																	⑤											
	-7.5m 取付護岸																	⑤											
備考																													

商港岸壁平面図



※ -7.5m 1号・2号岸壁を同時に施工する際は、-4.5m岸壁と-7.5m 3号岸壁への進入路を確保します